

第二回関東委員会定例会議事録

日時 : 二〇〇八年二月十六日(土)14:00~17:00

場所 : 高田馬場 Cafe MOEU

参加者 : 雨宮 広樹、荒木 津香佐、緒方 健太、

田中 佐代子、為貝 みか、高橋真代、

松村 佳織、三浦 勇太、矢口 晃士、

矢部 后代、吉田 亮輔、

内容 : 自然王国について、関東委員会の運営体制、
会費について

一・自然報告の報告

【フィリピンキャンプ国内部リーダー・副代表】

高橋真代から

・なぜ農業か。

今食べたみかんも、白菜も誰が作ったかさえ知らない。逆の立場も同じで、作った人は誰に食べられていいのかさえ知らない。今日の経済の仕組みからすれば当然のことだが、一方でそれが故に失っているものも確実にあると思う。

自分がこれまでの経験から、己で食べ物を育てることによって自然と食べ物大切にし、食べ物に意識するようにになると考える。

都会に生活していると農業どころか、土に触る機会さええない。コンクリートに塗り固められ、土さえ目にしないのではないだろうか。だからこそ農業を知り、学び、自然と向き合う機会を設けること、共同作業することを見つめなおさなければならぬのではないかと考えたからである。

・場所は？

FIMC 関西韓国キャンパーOB 宮田さんは千葉県鴨川市で自然王国スタッフである。自然王国の畑ではなく宮田さんの所有する畑を貸してくれるそう。泊まる場所は自然王国の宿（一泊2000円）。

・なんで畑を借りるの？

自然王国の手伝いだけではダメなのか？

王国の手伝いとしていくことも可能。しかし、それはFIMCのキャンプになるのか？個人の手伝いにならない。王国の手伝いで来るときはただのお客様。私たちが畑を借りるということで、生命を育てる大切さ、生命を守り抜く大変さを感じることができ。また、一年を借りるということで植物のライフサイクル、継続性を肌で体感できる。

・月1で本当にいいのか？

自然王国の会員さんは自然王国で畑を借りているのだが、月1で訪ねている方が多い。確かに、夏場は草がボーになるだろうが、それを体験することもよい。

・中心人物はFIMC フィリピンの

スタッフ以外の人でもいいのか？

もちろん！企画の規模の大きさからいっても、フィリピンのスタッフのみで運営するのは難しい。また、各海外部の壁を取っ払うためにも、OB・OGと現役スタッフとの関係を密なものにするためにも、それはむしろ望ましいことだ。関東委員会全体として運営していくのもいいのではないだろうか

・今後 活動時期は未定

実施する場合、三か月前には告知する

二・関東委員会の運営について

【組織体制(仮)】

委員長 : 緒方健太

副委員長 : 雨宮広樹

広報 : 田中美津子、小関太郎

会計 : 鈴木美和子、近原弘芳

会計監査 : 遠藤義大、田中祐也

OB : 田中佐代子、吉田亮介

・各海外キャンプの代表が役員になることによって、関東委員会と海外部の連携をとりやすくする。

【定例会について】

・月一回

・日付と場所は固定するのが望ましい

【会報について】

・以前は、定例会の報告書として、月2回「会報」を発行していた。

・「会報」をweb化し、webでは拝見できないOB・OGには希望者を募り郵送。

・寄付金をいただいている方には、全員に発送する。

web化の利点

・紙資源の節約予算の削減 約三六万↓約五万

作業量が大幅に減る

web化の問題

・「会報」がweb化することを報告をいつするのか？
報告する時点で、すでにHPができている必要がある。

・簡素・合理化を追求しすぎると、メンバーの関係も希薄化する恐れがあり、手間暇をかけて、報告書を製作するというのも、大事なのではないか。

三・会費について

・年回費 3,000 円

以前は、FIMC 関東委員会の運営費として、活動に関わるすべての人に徴収いたのだが、現在は、キャンプの参加者のみに、キャンプの参加費とともに徴収している。

↓キャンプの参加者は、キャンプそのものに参加したつもりで、FIMC 関東委員会に属しているという意識がそもそもないので、会費について、疑問の声が上がっている。

・どこまでとるのか。

・OB・OG から頂いた寄付金をどのように分配するのか。

例) カレンダープロジェクトの場合

ファンド制：予算を見積もり、予算の申請をする。

・ワークキャンプに寄付金を多く分配することで、現役スタッフへのバックアップができるのでは？。

↓学生が、自分の力でキャンプ費を稼ぎ、そのうえで参加することに意義があるので、その必要はない???

・会計監査の手順はどうするのか。

※会議での決定には至らず、次回会議に持ち越す。

(文責：荒木津香佐)